


2023 ~ 2024 年度国際ロータリーのテーマ

世界に希望を生み出そう

●会長 中島 祐爾
●幹事 緒方 公一

 No.1839 令和 05 年 11 月 08 日 第 16 回例会

※例会日 毎週水曜日 12:30~

※例会場 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内

※事務所 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内 TEL 354-4521 FAX 354-4053

※ URL <https://www.serc2720.org> ※ email serc@serc2720.org



世界に希望を生み出そう



■点鐘

■国歌斉唱「君が代」

■ロータリーソング「我らの生業」

(ソングリーダー 古田哲朗)



■熊本東南ロータリークラブの歌「未来」

(ソングリーダー 古田哲朗)



■来訪者紹介 (会長 中島祐爾)

卓話者 天草ショーゴ 様



■会長の時間 (会長 中島祐爾)

ロータリーの組織について



各ロータリークラブは国際ロータリー (RI) に直接加盟しています。国際ロータリー世界本部はアメリカ、イリノイ州エバンストンにあり、国際大会で選ばれた会長、理事、役員が運営に当たります。管理の便宜上、世界は534地区 (2016年) に分けられています。各地区には40~90のロータリークラブがあり、国際ロータリーの役員として選ばれた地区ガバナーによって監督、管理されます。因みに日本は34地区、各グループに担当するガバナー補佐が、任命されます。

<ロータリー各組織における主な行事は

●国際ロータリー

・国際大会

毎年1回、4月から6月頃開催される世界のロータリアンの集いです。

本年度2024年5月25日からシンガポールにて開催

・理事会

理事会は国際ロータリーの目的の推進、ロータリーの目的の達成のために必要なあらゆることを行わなければなりません。

定員19名で、国際ロータリーの会長、会長エレクトも理事であり、17名の理事はRI細則の規定にしたがって指名され選挙されます。

・規定審議会

国際ロータリーの立法機関です。3年ごとに4月~6月に開催されます。クラブ、地区 大会、国際ロータリー理事会から提案された立法案を審議採択します。

審議会議員は、地区ごとに1名の代表が選ばれます。

●地区

・地区大会

毎年1回、ガバナー主宰で開催される地区内全会員の集いです。友情、交歓と感銘深い講演、およびクラブや地区あるいは国際ロータリー全般に関する問題の討論をすることによってロータリーのプログラムを推進することが目的です。

・会長エレクトセミナー (PETS)

地区ガバナーエレクトが、地区ガバナーの協力を得て実施いたします。次年度のクラブ会長 (会長エレクト) のための研修教育プログラムです。

・地区研修・協議会

毎年1回、地区内全クラブの次年度の会長、幹事、主催委員会の委員長などの指導者が集まる知識、情報交換の会合です。

●グループ

・都市連合会 Intercity Meeting

毎年1回、グループ内あるいは数グループのクラブ合同で5大奉仕部門にわたり奉仕の理念を勉強する会合です。

会員相互の知り合いを広め親睦を深め、また入会間もない会員のロータリークラブに入会して感じたことなどの発表の場でもあります。

●ロータリークラブ

・ガバナー公式訪問

本年度は9月に平成クラブ、水前寺公園クラブと3クラブ合同で開催いたしました。

・クラブ協議会

クラブの目標、計画および運営活動などについて全会員と協議する会議です。

長期戦略委員会によるクラブ戦略計画を今後予定されています。

・年次総会

毎年12月末までに (当クラブは11月第3週例会) 開催し、次々年度会長 (会長ノミニ)、次年度の理事、役員 (副会長、幹事、会計、SAA) を選挙します。

・クラブ理事

毎月1回、理事会を開きます。

理事会はクラブ運営の最終決定機関で、年度計画、新しい試みなど実行に移す時

この理事会に諮ります。

・クラブフォーラム

全会員で奉仕活動、クラブ運営、その他クラブの問題点などについて自由に討論する会議です。

■幹事報告 (幹事 緒方公一)

■来信案内

1)

膳所和彦 ガバナーより、シンガポール国際大会の案内。

(2024年5月25-29日) ※皆さまにメールにてご案内しております。

2)

膳所和彦ガバナー、林明ロータリー財団部門長、彌富照皇 次年度ロータリー財団部門GG・PP委員長より、グローバル補助金のプロジェクトのパートナー募集について。

■クラブより

1)

第5回定例理事会報告。

■今後の地区行事

2023	11月13日(月)	世界ポリオデー × 子どもたちにクラシック音楽を	熊本県熊本市	熊本市民会館シアーズホーム夢ホール
		彌富照皇、松本繁、小畑成司		
	11月25日(土・日)	第39回ローターアクト年次大会	熊本県熊本市	熊本 B.9、コンフィホテル
		杉本整哉、彌富照皇、宮川義行		

■委員会報告

(親睦・スマイル担当 松岡泰光)

「家族会について」



■委員会報告

(次期幹事 福井学)

「次年度役員・理事選出について」



■出席報告

(出席・プログラム担当 生駒あき)

月日	会員数	出席者数	MU	修正出席者数	出席率(%)
10月25日	44 (免3) 41	29	2	31	75.61
11月08日	43 (免3) 40	26			65.00

☆退会

10月31日 徳永貴子

☆出席免除

10月25日

住江正治 島村徹男 志賀重人

☆欠席者

10月25日(10名)

古田哲朗、井村宣敏、川崎直樹、西田智史、小野川善久、潮谷愛一、徳永貴子、山本浩之、山坂哲生、矢野敬之



■スマイル報告

(親睦・スマイル担当委員 出先教明)



◎出先教明 5,000円
久しぶりのホームクラブ出席です。



◎宮川義行 4,000円

連日イスラエルのガザ空爆や攻撃が行われていますが、おかげでウクライナのニュースが飛んでしまっています。次々戦火が拡大する中で多くの子供たちが犠牲になっています。無力さだけを感じます。世界の指導者にしっかりして欲しいですね。ウクライナの現状も気になるのでいつか身近にいるウクライナ女性に卓話してもらえればと思っています。



◎中島祐爾 2,000円

天草ショーゴ様、本日の卓話宜しくお願ひします。来年4月の40周年記念イベントのアクション、楽しみにしています。盛り上げて下さい。33回目の結婚記念日ありがとうございました。



◎井村宣敏 2,000円

お久しぶりです。忘れられないかと心配していました。これからも宜しくお願ひします。



◎堤勝也 2,000円

妻の誕生祝いありがとうございました。



◎潮谷愛一 2,000円

11月誕生祝いありがとうございました。84になります。

■外部卓話 天草ショーゴ様

「天草サーカスの活動について」



天草サーカスとは

2021年に熊本・天草で誕生したサーカス団。

天草生まれのマジシャン 天草ショーゴが、世界最大級の芸術祭「アデレードフリンジ」に出演したことをきっかけに、「天草でも世界中のショーが見られる芸術祭を開催したい。」という思いを抱き、日本中からトップレベルのアーティストを集結させ結成した。

芸術性の高いパフォーマンスはもちろん、作品に込められたコンセプト、ストーリー性を重視した作品も魅力のひとつ。東京でも大阪でも福岡でもなく、天草からエンターテインメントの可能性を切り拓き、天草に散りばめられた可能性が花開く未来を目指し「天草咲かす 天草サーカス」を合言葉に活動している。天草サーカスの活動の先に、島全体を巻き込み世界中から様々なショーが集結する大芸術祭、天草フリンジフェスティバルの開催を目指している。(ホームページから掲載させていただきました。)

<https://amakusa-circus.com/>



■点鐘

編集 永野昭一

アフガニスタンでポリオを根絶する機会

投稿日: 10月19日, 2023 投稿者: Rotary Japan

日本でポリオ根絶に携わるアフガニスタン人疫学者が現地のポリオ事情を説明

寄稿者: サバウヌ・ウリシュミン (一般社団法人リエゾン シニア・アドバイザー、元アフガニスタン大統領府 ポリオ根絶フォーカルポイント疫学者)

アフガニスタンは、ポリオ根絶が世界で最も困難な国と考えられて

いました。その主な理由は、同国政府と当時のソ連の同盟国であるムジャヒディーンとの間の戦争、ムジャヒディーンとタリバンとの間の交戦、タリバンとアフガニスタン政府および北大西洋条約機構(NATO)の同盟国との間の戦争など、長く続いた内戦と国際戦争があったことです。最近の戦争は20年近く続き、2021年8月にはNATOが支援する政府がタリバンに崩壊されました。



この政権交代は、経済的困窮、人道的危機、医療を含むサービスの途絶、女性の政治からの孤立、女子の中学・高校・大学への進学禁止と関連していることが、マスメディアを通じて広く伝えられています。しかし、マスメディアは政権交代に伴う前向きな進展(例えばポリオ根絶のような世界的な健康問題への影響)を無視することが少なくありません。

この国からポリオをなくす機会が訪れている理由

過去40年以上にわたって戦争を経験してきたアフガニスタンの人びとは、これほどの平穏な日常を経験したことがありません。紛争地帯はもはや存在せず、その意味での治安は改善されたと言えます。政変前にポリオ予防接種が行き届かなかった5歳未満の子どもは数百万人いましたが、現在は治安が理由で予防接種できない子どもの数はゼロとなっています。これは、この国におけるポリオ根絶活動のターニングポイントと言えます。また、現政権はポリオ根絶については前向きな姿勢を示しています。

また、自治体のサービスも以前より改善されています。これは、ポリオが衛生問題と深く結びついていることを考えると重要な点です。さらに、砂漠を農地に変えるための大規模プロジェクトや灌漑用ダムが各地で建設中であり、国内農業が発展すれば栄養摂取による子どもの免疫力も高まると期待されます。汚職も削減され、国外からの補助金の不正使用は最低レベルに達しています。

これらの点から、アフガニスタンでは今、ポリオ根絶の機会がもたらされていると言えます。



パキスタンとアフガニスタンの国境にあるポリオ予防接種所で働く保健ワーカーたち (2021年9月20日)

アフガニスタンでは、2023年9月現在、34州中30州で18カ月以上ポリオウイルスが検出されていません。この進展は主に、紛争地域で苦難に見舞われ、あるいはアフガニスタンでのポリオ根絶のために自らを犠牲にして献身してきた第一線ワーカーたちのおかげです。例えば、2021年3月(政変前)にはジャララバード(ナンガルハル州)でポリオ・ボランティア3人が襲撃されて死亡、6月にはポリオワクチン投与ボランティア6人が正体不明の武装集団に射殺されました。ただし、私の知る限り、政権交代後にナンガルハル

州でこのような事件はまだ報告されていません。

アフガニスタンにおける課題

このように好機を迎えているとはいえ、野生型ポリオウイルスの伝播が再確立する危険性は今も存在し、アフガニスタンとパキスタンの双方に大きなリスクをもたらしています。次のような課題が残されています：

- ・ 東部地域における免疫力の格差：現在、すべてのポリオ症例は、東部のナンガルハル州から報告されています。政変前にワクチン接種者が襲撃される事件が2度あった結果、一時的にポリオ・キャンペーンが延期されたことに加え、同州では何年もアクセスが悪かったため、5歳以上のワクチン未接種の集団が存在します。また、同州には多くのワクチン拒否者が散在しています。

- ・ 戸別訪問ができない：これは特に南部地域では大きな課題です。戸別訪問が許可されていない場合、対象児童の50～60%にしか予防接種を行うことができません。

- ・ 人道危機：数十年にわたる紛争、治安悪化、自然災害、政変、貧困、国際援助の激減に伴う経済縮小、資産の凍結などによる人道危機もあります。国連の予測データによると、2022年11月から2023年4月までの間、栄養失調の子ども・女性の数は400万人以上となっています。

- ・ 脆弱な定期予防接種プログラム：アフガニスタンの保健システムは寄付者（ドナー）からの助成金に依存していますが、保健システム、特に病院部門への資金が減少しており、定期予防接種プログラムの強化が困難になっています。

- ・ 劣悪な衛生環境：衛生状態は全国的な課題であり、特にポリオが常在する東部地域でポリオウイルス蔓延の要因となっています。

ポリオ根絶実現に向けたアクション

今はアフガニスタンにおけるポリオ根絶には絶好の機会だと私は考えています。紛争がなく子どもへのアクセスが改善されている現在、国全体で質の高いキャンペーンを実施すべきです。しかし、そのためには、タリバンの指導者に戸別訪問のポリオ・キャンペーンを許可するよう説得し、保健システム（特に病院部門）への資金援助を再開させて国内でポリオの有無を検査できるようにし、人びとの基本的な保健のニーズ（清潔な水の供給、衛生システムの改善、補助食品の提供など）に対応し、定期予防接種率を高める必要があります。

保健システムの強化にはより多くのリソースが必要とされるため、寄付者や寄付団体、寄付国からの継続した支援が欠かせません。ポリオ常在国や蔓延国の政治指導者がコミットメントを表明するだけでは不十分であり、各国の指導者がコミットメントを行動に移すよう動機付ける必要があると、GPEIのパートナーは考えています。

日本政府やロータリーによるアフガニスタンのポリオ根絶への長年の支援に感謝するとともに、根絶を達成するための継続的な

パートナーシップに期待しています。私自身も、ポリオのない世界を次世代に残すため、積極的に貢献していきたいと思います。

今回の記事を寄稿する機会をいただき、ありがとうございます。本稿についてご質問がある場合、または例会や行事でのプレゼンテーションを希望される場合には、contact@projectliaison.org または w.sabawoon@projectliaison.org までご連絡ください。

【寄稿者プロフィール】

サバヌ・ウリシュミン (WRISHMEEN SABAWOON)

1999年にカブール医科大学を卒業。ナンガハール州でプライマリ・ヘルスケア (PHC) 研修担当官として勤務した後、公衆衛生省でPHCディレクターを務める。非営利組織のInternational Medical Corpsで保健・情報システム・栄養マネージャーおよび州コーディネーターとして勤務。2005年、日本政府（文部科学省）からの奨学金を得て東京大学に入学し、医学の博士号を取得。2013年～2019年には世界ポリオ根絶推進活動 (GPEI) の一員としてアフガニスタンの大統領ポリオ根絶フォーカスポイント事務所で疫学者として勤務。2019年10月に政情不安のため再び来日。2021年10月より早稲田大学客員研究員。現在、一般社団法人LIAISONのシニア・アドバイザーとして、GPEIを通じて日本におけるポリオとグローバルヘルスに関する人びとに認識向上に取り組む。

ロータリーボイスより

※世界ポリオ根絶推進活動 (GPEI)

世界ポリオ撲滅イニシアチブは、世界保健機関 (WHO)、国際ロータリー、米国疾病予防管理センター (CDC)、国連児童基金 (ユニセフ) の6つのパートナーと各国政府が主導する官民パートナーシップです。、ビル&メリンダ・ゲイツ財団とGavi、ワクチン同盟。その目標は世界中でポリオを根絶することです。

<https://polioeradication.org/>



※一般社団法人LIAISON

LIAISONは、全ての人に公平な医療アクセスを実現し、基本的人権が保障される世界を目指すグローバルヘルス・イノベーションラボです

<https://www.projectliaison.org/japan>

